行動計量学会報

# 山本俊一先生を悼む

柳 井 晴 夫

昨年 9 月に発行された「日本行動計量学会 35 年記念誌」の第 1 部「日本行動計量学会の 35 周年を祝って」の巻頭を飾った山本俊一先生の文面を再録しよう。

―日本の大部分の学会は、同じ専門分野の研究者が集まって、互いに研修し批判するいわゆる「縦割り学会」である。その方法論を共有するからといって、多くの異質の専門分野からの研究者を集めて、その方法論を論ずるという「横割り学会」は少ない。日本行動計量学会発足当時の会員の多くは「このような形式の学会は日本の社会には適さないため成立しないのではないか？また、たとえ成立したとしても、それが長続きするかどうか？」と心配した。しかし、現実には、この学会はその後発展し、ここに 35 周年を迎えた。めでたい限りである。また、これは、如何に行動計量学が各分野で方法論として役立っているか、の証拠であろう。―

山本俊一先生は、日本行動計量学会が発足した 1973 年 9 月には理事、1976 年～1979 年には編集委員長という要職に就かれ、1974 年 1 月、79 年 1 月、10 月に、学会活動の要であった「月例シンポジウム」を率先して開催していただいた。さらに、1993年に発行された行動計量学シリーズ第3巻には「健康の計量学(朝倉書店)」として、山本先生が長く携われた「多くの疫学データ」を使用され、「はじめに」において尺度としての「健康」を定義した後、「方法」「分布」「相関」「因果」「指標」「数理モデル」といった行動計量学的方法論について先生の立場から簡潔に記載されている。これらの成果によって、1993 年 9 月には、日本行動計量学会の名誉会員(第 1 号)に推挙されている。なお、山本先生には、上記以外の多数の書物を出版されたが、そのうちの 1 冊として、ハンセン病の歴史をまとめた「日本らい史」(1997 年, 東大出版会, 増補版)をあげておく。

また、山本教授の論文の一つに、行動計量学会欧文誌に掲載された First Encounter of Medicine and Statistics in Japan, Behaviormetrika, No7, 75-79, 1980、がある。この論文において、18 世紀末に導入された「Statistic s」が「統計学」でなく、「統計」と訳された誤りが、今日までつづく、日本の医学部における「計量生物学」講座設立に対する無理解に繋がっているという主張は興味深い。

1974 年 4 月に発行された『日本行動計量学会会報』の巻頭言において、行動計量学会は多数の異分野の寄り合い世帯の学際的性格の強い学会であることを懸念され、「真の学際研究をめざすために」なすべき会員の心得として「異なる分野の研究者からも、ものおじせずに、何でも教わるべきである」という会員の心得を明示されたが、発足後 35 年経過した本学会の発展を評価して頂いた本稿冒頭に述べられてある文章は、本学会会員にとっても、何にも代え難い山本先生からの「遺言」といえよう。

敷衍すると、山本先生は、学会発足当時、筆者が助手をしていた東大医学部疫学教室の教授を担当されていたが、学会発足と同時に筆者が事務局長に推薦されたため、疫学教室に事務局を設置する必要性が生じ、この件で、恐る恐るお願いに教授室に伺った際、何一つ条件をつけずにお許し頂いた山本教授の英断が、今日の行動計量学会発展の礎になったといっても過言ではない。

(やない はるお　聖路加看護大学
行動計量学会理事)

## 訃　報

本学会名誉会員で東京大学名誉教授の山本俊一先生は、病気療養中のところ平成 19 年 12 月 13 日永眠されました(享年 86 歳)。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 訃　報

本学会会員で元事務局長の国語研究所名誉所員の江川清先生は、平成 21 年 2 月 16 日永眠されました(享年 66 歳)。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 役員選挙結果

**植野真臣(選挙管理委員会委員長)**

下記の通り、役員選挙結果をご報告致します。

**実施概要**

無記名投票による。理事 5 名、監事 2 名を記入。

投票締切：2009 年 2 月 12 日(木)　当日必着。

**開票概要**

日時：2009 年 2 月 16 日(月)　13:00～17:00

場所：統計数理研究所　第 1 セミナー室

返送総数　114 通　有効投票　107 通

無効投票　7 通(投票用紙を投票用封筒に未封入のもの)

理事のべ投票数 503 票　監事のべ投票数 179 票

**開票結果**

理事当選者

飽戸　弘 足立浩平 今泉　忠 岩崎　学 岩坪秀一

植野真臣 大津起夫 大森拓哉 岡太彬訓 狩野　裕

菊地賢一 繁桝算男 竹村和久 千野直仁 鄭　躍軍

豊田秀樹 林　文 前田忠彦 松本　渉 村上征勝

柳井晴夫 山岡和枝 山口和範 吉野諒三 渡辺美智子

以上 25 名（五十音順）

監事当選者

柳原良造 渡部　洋　以上 2 名（五十音順）

## 日本行動計量学会第 37 回大会開催のご案内

**第 37 回大会実行委員長 江島伸興(大分大学)**

1. ご挨拶

大会実行委員を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。第 37 回大会が 2009 年 8 月 4 日(火)から 8 日(土)まで大分大学医学部キャンパスでの開催となり、誠に光栄に存じます。日本行動計量学会は人間の行動に関する数量的研究を目的に組織され、多くの研究分野に対する学際的な研究が展開されてきました。新しい数理モデルの構築、既存理論の周辺科学への応用、さらには社会問題解決への貢献などは、幅広い分野の専門家で組織される本学会ならではの活動成果と考えています。多彩な概念やモデルを駆使する柔軟な研究の方向性は、現代の学際的研究には不可欠なものと思われます。

周知の如く、最近は医療や医学問題がマスコミに頻繁に登場しています。地域医療での医師不足、救急医療システム、災害医療システム、環境・予防医学、バイオテロや新型ウイルス感染制御などの諸問題が山積しています。このような喫緊の課題に対する行動計量学のアプローチを考えることは重要であると思われます。大会セッションや特別シンポジウムではこれらのテーマを取り入れ、医療問題を考えるための人的交流の場にしたいと考えています。理論と応用研究の斬新的な展開のためには、既存の枠組みを超えた人的交流と協同研究への意欲が必要です。この大会を契機として学際的研究グループが組織できることを期待します。

会場の近くには別府温泉（地図参照）があり、この機会に温泉で日頃の疲れを癒して頂ければ幸いです。別府市内に宿泊すれば昼間は研究会、そして夕方は温泉になりますので一石二鳥です。大会や宿泊等の企画案内をご確認の上、多数のご参加を期待いたします。本大会の大いなる成果を祈念して、大会準備と運営にあたりたいと考えています。

2. 特別セッションおよびソフトウエアデモセッションの公募

第 37 回大会実行委員会では、特別セッションとソフトウエアデモセッションの公募いたします。会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

特別セッションに関しましては、行動計量学の発展や社会への貢献に寄与できるような企画のご提案を歓迎いたします。応募が多数の場合には実行委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。特別セッションの申し込みに際しては、下記の項目を記載のうえ、E-mail にて実行委員会事務局までお知らせください。特別セッション 1 件あたりの時間は 120 分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。また、今回は協賛企業によるソフトウエアデモセッションを設けました。この件につきましては実行委員会へお問い合わせ下さい。

◆　特別セッション申し込み記載項目

セッションのテーマ　(タイトル)

オーガナイザーの氏名・所属・連絡先

予定講演者と演題名（予定で結構です）

◆　特別セッション応募の締切り

2009 年 3 月 27 日（金）

◆　特別セッション応募先

日本行動計量学会第 37 回大会実行委員会

E-mail: officebsj2009@med.oita-u.ac.jp

TEL：097-586-5126

詳細は下記 URL の「特別セッション募集」をご覧く

ださい。
http://www.med.oita-u.ac.jp/IS/BSJ2009/

3. 一般研究発表申込および事前参加申込について
一般研究発表や参加の事前申込は基本的にホームページ上で行うこととします。それぞれの締め切りは、一般研究発表申込締め切りを5月中旬とし、それ以降、参加事前申込の締め切りを設定させていただく予定です。確定した期日などは2009年2月下旬ごろお知らせいたしますが、今現在の予定といたしまして、下記の日程で考えております。

◆ 一般研究発表申込期間
3月2日（月）～5月15日(金)
◆ 一般研究発表抄録原稿受付期間
3月2日（月）～6月12日(金)
◆ 事前参加申込期間
3月2日（月）～7月17日(金)

開催時期が、例年より 1 か月早くなっております。各種申込期間や締切日も早くなっておりますので、ホームページ等で期日をご確認の上、ご準備の程、宜しくお願い致します。

4. 宿泊および懇親会のご案内
大会ホームページで太平洋トラベル（株）から別府市や大分市内の宿泊と航空機の便等をご案内いたします。また、懇親会を別府で行いますので、別府に宿泊する案を以下のように提案致します。別府から貸し切りバスで医学部キャンパスとホテルを往復すると、夏の暑い時には便利です。また、8月7日の日程終了後に、大分空港とJR別府駅へ貸し切りバスで直行しますので、7日に帰られる先生方は時間的に楽で最後まで大会に参加できます。貸し切りバスの料金は公共交通機関を利用して会場とホテルを往復する場合および空港までの交通費を基準に設定し、宿泊等と一緒にご案内致します。バス利用者の把握が必要になりますので、別府に宿泊の方は太平洋トラベル（株）で宿泊等を予約して下さい。また、7日に宿泊される先生方には8日の特別企画をご案内いたします。

5. 特別企画
大分県の歴史、文化と自然に関する見学会(1日観光)を8月8日に計画中です。大分県は自然が豊かですが、交通が不便ですので貸切バスで見学するのが一番良いと思います。別府を出発して空港および別府駅で解散の予定です。歴史、文化と自然に興味をもたれる方はご参加ください。見学会のご案内は宿泊と一緒に大会ホームページからご案内致します。

## 日本行動計量学会第 12 回春の合宿セミナーのご案内

第12回春の合宿セミナーを下記の要領で開催いたします。「統計ソフトウェア実習コース」と「データ解析講習コース」の２コース制をとります。参加者には申込時にいずれかのコースを選択して頂きます。今回は、学会発表未経験者(または経験の浅い人)を対象とした「学生セッション」を企画しました。受付可能件数は10件と少数ですが、積極的にお申し込みください。また、１日目の夜の懇親会への積極的なご参加もお待ちしております。

「合宿」セミナーと銘打っておりますが、残念ながら適当な施設が見当たらず、宿泊につきましては各自でご用意下さいますようお願いいたします。各講演の概要等につきましては準備でき次第、下記 URL にてお知らせしますので、随時ご確認ください。
URL：http://web.me.com/osamu_ys/BSJ_SS2009/Welcome.html

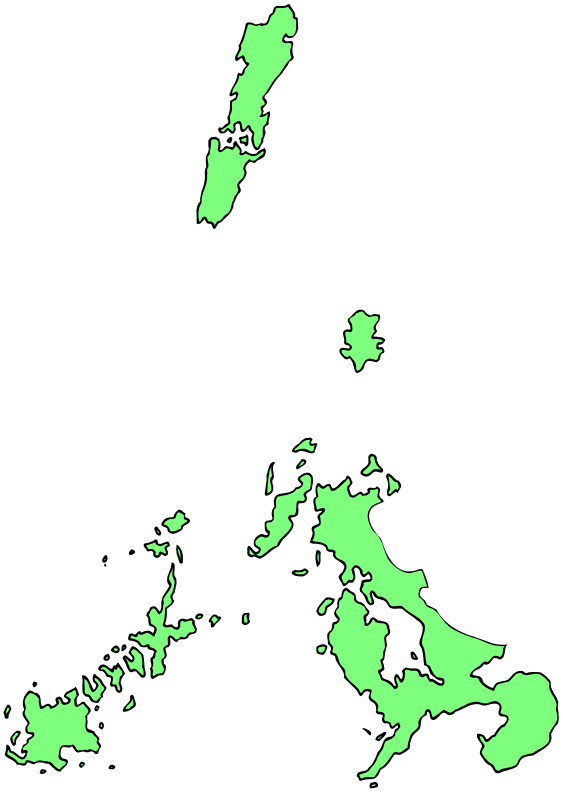
日時：2009年3月16日(月)10:00～17:30,
17日(火)10:00～12:00
場所：長崎大学文教キャンパス(長崎市文教町1-14)
情報メディア基盤センター(A会場)
総合教育研究棟(B,C会場)

プログラム
A会場「統計ソフトウェア実習コース」(定員50名)
1日目
10:00-12:00　R入門(1)
大津起夫　先生(大学入試センター)
13:00-15:00　R入門(2)大津起夫　先生
15:30-17:30　学生セッション(B,C会場へ移動)
18:00-20:00　懇親会

2 日目
10:00-12:00　R 入門(3)大津起夫　先生
B 会場「データ解析講習コース」
1 日目
10:00-12:00　医療系分野における統計分析の基礎
西川浩昭　先生(日本赤十字豊田看護大学)
13:00-15:00　傾向スコア補正法(仮)
星野崇宏　先生(名古屋大学)
15:30-17:30　学生セッション(5 件)
18:00-20:00　懇親会
2 日目
10:00-12:00　生命表解析とロジスティック回帰分析入門
松井研一　先生(シミック株式会社)
C 会場「データ解析講習コース」
1 日目
10:00-12:00　分散分析と平均値の多重比較(仮)
橋本貴充　先生(大学入試センター)
13:00-15:00　因子分析・SEM 入門(仮)
中村知靖　先生(九州大学)
15:30-17:30　学生セッション(5 件)
18:00-20:00　懇親会
2 日目
10:00-12:00　多重対応分析入門(仮)
足立浩平　先生(大阪大学)

参加費(事前支払／当日支払)
学生会員　：2,000 円／3,000 円
学生非会員：3,000 円／4,000 円
一般会員　：5,000 円／6,000 円
一般非会員：10,000 円／12,000 円
懇親会費(事前支払／当日支払)
学生会員　：2,000 円／3,000 円
学生非会員：2,000 円／3,000 円
一般会員　：5,000 円／6,000 円
一般非会員：5,000 円／6,000 円
事前支払い口座番号及び口座名義
十八銀行　大橋支店　普通　296662
日本行動計量学会第１２回春の合宿セミナー事務局
代表者　吉村　宰

申込方法
以下の内容をご記入の上 E-mail　またはFAX でお申し込みください。
＜宛先＞　E-mail：osamu@nagasaki-u.ac.jp
FAX：095-819-2112(共通)
1）件名：SS2009
2）所属
3）氏名
4）連絡先(E-mail アドレスまたは電話番号)
5）会員・非会員の別
6）一般・学生の別
7）参加希望コース
8）懇親会参加の有無
なお、学生セッションでの発表を希望する方は以下もご記入ください。
A) 演題　B) 概要(200 字程度)　C) 指導教員名
※希望者多数の場合は原則先着順、ただし指導教員の多様性を優先します。
問い合わせ先
長崎大学アドミッションセンター　吉村宰
E-mail：osamu@nagasaki-u.ac.jp
TEL：095-819-2117　FAX：095-819-2112 (共通)



## 運営委員会より

## 第 93 回行動計量シンポジウム報告

日時:2008 年 12 月 13 日(土) 16:30-18:00
場所:多摩大学品川ルネッサンスセンター
プログラム:
題目　Area Biplots
発表者　Michel van de Velden (Erasmus University Rotterdam)
(joint with John C. Gower and Patrick J. F. Groenen)
司会　岡太彬訓
オーガナイザー:岡太彬訓, 山口和範, 今泉忠
参加者数:12 名
企画の目的・趣旨・まとめ

主成分分析あるいは対応分析などでの行と列の間の関係を、従来のように、2 つの対応するベクトルの内積で表現するのではなく、三角形の面積によって表現し、視覚的により理解しやすい幾何学的な表現を求める方法についての発表である。多変量解析によって得られる結果は複雑でなかなか理解しにくい場合もある。これらを視覚的に理解できれば、複雑な結果であっても容易にその意味をくみ取ることができる。本発表は、そのような方法の中でも最新のものであり，理論と計算手順、そして、応用例(これは日本の酒類についてのものであった)が紹介された。約 1 時間の発表の後、参加者からの質問も交えて、約 30 分の活発なディスカッションを行った。

発表内容のまとめ

Classical multivariate analysis techniques such as principal components analysis and correspondence analysis use inner products to estimate data values. Results of these techniques may be visualized by presenting row and column points jointly in a biplot, where the projection of a row point onto a column point vector followed by a multiplication by the length of the column point vector gives the inner-product that estimates the corresponding data element. In this paper, we propose a new visualization: after a 90° rotation of the row points, the areas spanned by a triangle of a rotated row point, a column point and the origin estimate the data values. In contrast to the projection biplot, the areas spanned by different row and column points can be compared directly. Similarly to inner products, higher dimensional area solutions can be represented by summing areas over subsequent pairs of dimensions. Here, the area biplot is developed for principal components analysis, correspondence analysis, and for interaction biplots but has general applicability.

## 会員の図書

ビデオリサーチ編, 広告効果の科学ー実務家のための分析アプローチ, 日本経済新聞出版社・日経事業出版センター, 2009 年

## 関連学会等カレンダー

### ＜学協会大会・定例シンポジウム等＞

### ☆第 47 回数理社会学会大会

会　期:2009 年 3 月 7 日(土)・8 日(日)
会　場:京都産業大学
照会先:数理社会学会研究事務局(〒301-8555 茨城県龍ヶ崎市平畑 120 流通経済大学・社会学部)
TEL: 0297-64-0001　FAX: 0297-64-0011
URL:http://www.rku.ac.jp/~tsuzuki/jams.htm

### ☆日本オペレーションズ・リサーチ学会 2009 年春季研究発表会

会　期: 2009 年 3 月 17 日(火)・18 日(水)
会　場: 筑波大学つくばキャンパス春日地区 (茨城県つくば市春日 1-2)
特別テーマ: 地球時代の OR(Operations Research for the Global Era)
照会先: 実行委員会
E-mail: nc2009s@orsj.or.jp
URL : http://www.orsj.or.jp/nc2009s

### ☆第 20 回日本発達心理学会大会

会　期 : 2009 年 3 月 23 日(月)～25 日(水)
会　場 : 日本女子大学
照会先 : 学会大会ヘルプデスク(〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19 (株)国際文献印刷社内)
FAX: 03-3368-2869
E-mail:jsdp-desk@bunken.co.jp
URL http://www.wdc-jp.biz/jsdp/conf2009/

### ☆第 6 回多重比較法国際会議(MCP2009)

会　期:2009 年 3 月 25 日－27 日
会　場:東京理科大学(神楽坂キャンパス, 森戸記念館)
照会先: URL:http://www.rs.kagu.tus.ac.jp/mcp2009/

### ☆第 79 回日本衛生学会総会

会　期:2009 年 3 月 29 日(日)～4 月 1 日(水)
会　場:北里大学薬学部(東京都港区白金 5-9-1)
照会先:総会事務局(〒228-8555 神奈川県相模原市北里 1-15-1 北里大学医学部衛生学公衆衛生学内)
TEL: 042-778-9352　FAX: 042-778-9257
E-mail: eisei79@med.kitasato-u.ac.jp
URL: http://www.med.kitasato-u.ac.jp/eisei79/

**☆日本経営工学会平成 21 年度春季研究大会**

会　期:2009 年 5 月 16 日(土)～5 月 17 日(日)
会　場:城西大学(坂戸キャンパス)
大会テーマ:アジアの発展と人材育成の共同化
URL http://www.jimanet.jp/activity/event/info.html

**☆2009 年度日本計量生物学会年会**

会　期:2009 年 5 月 20 日(水)～22 日(金)
(22 日はチュートリアル)
会　場:大阪大学銀杏会館(大阪府吹田市山田丘 2-2)
照会先:日本計量生物学会事務局(〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F (財)統計情報研究開発センター内)
FAX: 03-3234-7472
E-mail:biometrics@sinfonica.or.jp
URL: http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbs/index_i.html

**☆2009 年度応用統計学会年会**

会　期:2009 年 5 月 22 日(金)・23 日(土)
(22 日はチュートリアル)
会　場:大阪大学銀杏会館(大阪府吹田市山田丘 2-2)

**☆経営情報学会 2009 年春季全国研究発表大会**

会　期:2009 年 7 月 11 日(土)・12 日(日)
会　場:明治大学駿河台キャンパス(〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1)
統一テーマ:「白雲緑樹(Cloud and Green Computing)」
URL http://www.jasmin.jp/activity/zenkoku_taikai/index.html

**学会誌論文投稿先**

学会大会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

**和文誌「行動計量学」**

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1
多摩大学経営情報学部 今泉 忠
E-mail: imaizumi@tama.ac.jp

**欧文誌:「Behaviormetrika」**

〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23
独立行政法人大学入試センター研究開発部 大津 起夫
E-mail: otsu@rd.dnc.ac.jp

**日本行動計量学会会員数** (2009 年 2 月 15 日現在)

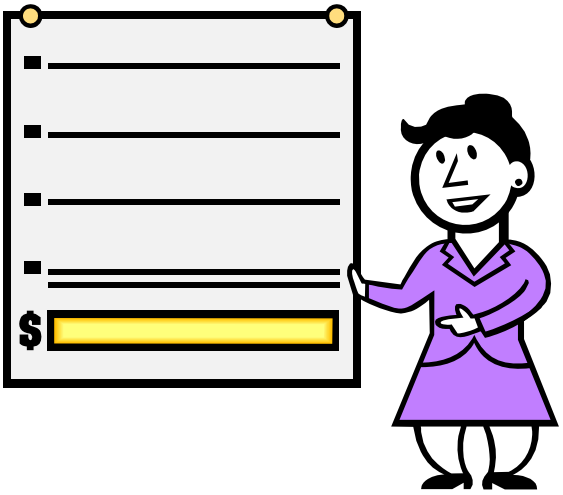
| | |
|---|---|
| 正会員 | 905 名 |
| 準会員 | 78 名 |
| 名誉会員 | 6 名 |
| シニア会員 | 4 名 |
| 寄贈会員 | 13 名(団体) |
| 賛助会員 | 22 社 |

**入会手続き**

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
(株)国際文献印刷社内
日本行動計量学会係(担当：岸)
bsj-post@bunken.co.jp
TEL:03-5389-6209　FAX:03-3368-2822

**日本行動計量学会 Web ページ**

http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/index.html



## 会員向けメーリングリストへの登録のお誘い

会員向けメーリングリストへの登録をお願い申しあげます。ＭＬへの登録（削除も）はご自身で行っていただきますが、簡単です。「会員向けメーリングリスト：登録・サービスの詳細」のページ http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/member/ml.html に接続して、そこの指示にしたがって行ってください。なお、会員であることを確認するために会員番号が必要ですので、学会からの送付物の宛名シールなどを用意して、作業をしてください。よろしくお願いします。

## 会員専用ページの開始

学会 Web ページの「会員のみなさまへ」の会報、会員向けメーリングリストの２つのページが会員専用となっています。これらのページにアクセスする際には、以下のユーザー名とパスワードの入力が必要となります。ユーザー名：bsj　パスワード：1973

## 編集後記

山本俊一名誉会員、江川清元事務局長のお二方の訃報を掲載することになってしまいました。学会の設立発展に尽力された方々が鬼籍に入られるのは寂しい限りです。山本先生は名誉会員の第１号ということもあり、聖路加看護大学の柳井先生に巻頭言として追悼文をお願いしました。巻頭言の中でふれられている「日本らい史」の他にも、東大紛争を先生の視点でまとめられた「東京大学医学部紛争私観」も当時の状況を報道記録とは違った面から知る貴重な資料の一つです。謹んでご両名のご冥福をお祈り申し上げます。

既にご覧になった方も多いと思いますが、朝日新聞の 2008 年 12 月 3 日の夕刊ニッポン人・脈・記「民の心を測る」④かきまぜて味わう「巨人」で、林知己夫先生（日本行動計量学会初代理事長）のバイタリティあふれる活躍の様子が、飽戸弘先生（現理事長）や杉山明子先生（前理事長）のコメントとともに紹介されました。朝日新聞の許可を得て，本学会の Web

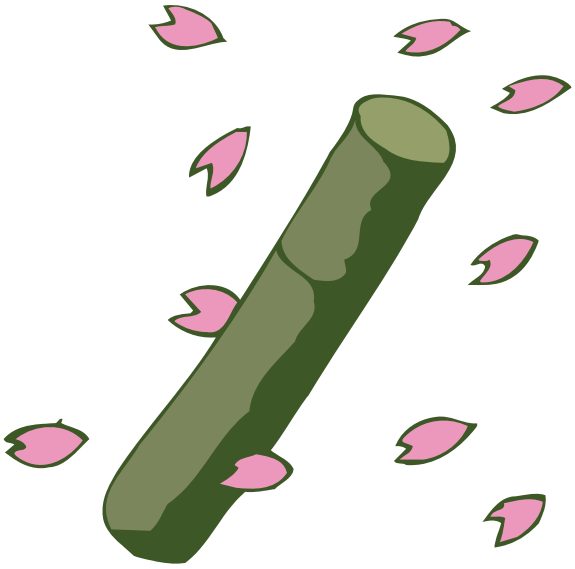
http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/info/index.html

に記事を掲載しましたので，ご覧ください。

３月の 16・17 日に春の合宿セミナーが長崎大学で、８月 4～8 日に第 37 回学会大会が大分大学で開催されます。九州づいている１年ですが、長崎、大分それぞれに違った魅力があるところです。両方に参加し、違った九州を観光されるのも一考だと思います。皆様奮ってご参加下さい。

最後になりましたが、現在の委員会のメンバーで発行する会報は今号で最後になります。当初は発行が遅れるなどご迷惑をおかけしましたが、何とか３年間やってまいりました。これもひとえに会員の皆様のお陰であることは言うまでもありません。この場を借りてお礼申し上げます。メンバーは変わると思いますが、今後とも会報の発行へのご協力よろしくお願い申し上げます。

題字：林知己夫

広報委員長：森裕一

会報作成担当：西川浩昭・菅野剛・田中ゆかり・生田目崇・西山悦子・広田すみれ・行廣隆次・前田忠彦